

令和元年11月22日

報道関係者 各位

ながさき農林業大賞運営委員会長賞
受賞者の市長報告について

標記の件について、下記のとおり報告会を開催しますので、お知らせします。

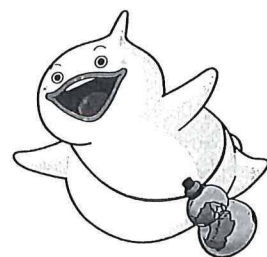
記

- 1 日 時 11月28日(木) 13:30～
- 2 場 所 外港庁舎(雲仙復興事務所2階)第一応接室 (南下川尻町7-4)
- 3 内 容 11月9日長崎市で執り行われた表彰式にて、令和元年度ながさき農林業大賞運営委員会長賞を受賞した、本市3名による市長への報告
- 4 報告者 畜産部門<トップファーマー>
○株式会社種村牧場(代表取締役 種村繁徳)
○有限会社塚ちゃん雲仙たまご村(代表取締役 塚原栄志郎)
農山村地域保全部門<げんきビレッジ>
○島原農地保全広域協定運営委員会(会長 平野俊輔)
- 5 別添資料 令和元年度ながさき農林業大賞表彰式次第
本市の受賞者3名のプロフィール

有明海にひらく湧水あふれる 火山と歴史の田園都市 島原



担当：島原市産業部農林水産課農林畜産班 担当 宮川
電話：0957-68-5486
E-mail：m-miyagawa@city.shimabara.lg.jp



島原守護神 しまばらん

ながさき農林業大賞

趣旨 地域の特色を活かした先進的な活動を展開し、成果を上げている農林業者・組織等を表彰することにより、個々の農林業経営改善意欲を助長するとともに農林業・農村の活力ある発展を促進する。

実施主体

主催 ながさき農林業大賞運営委員会

長崎県

協賛団体（長崎県農業協同組合中央会、全国農業オ協同組合連合会長崎県本部、長崎県農業会議、長崎県畜産協会、長崎県花き振興協議会、長崎県茶業協会、西九州たばこ耕作組合、長崎県森林組合連合会、長崎県土地改良事業団体連合会、長崎県農業経営改善ネットワーク、長崎県青果市場連合会、長崎県市長会、長崎県町村会、NHK 長崎放送局、長崎新聞社）

後援 長崎県生活協同組合連合会、NBC 長崎放送、KTN テレビ長崎、NCC 長崎文化放送、長崎国際テレビ、毎日新聞社、朝日新聞社、西日本新聞社、読売新聞西部本社

推薦部門

（１）トップファーマー（経営体）

下記８部門において、食の安全・安心や環境に配慮し、技術・経営がトップクラスにある認定農業者・林業者（いずれも法人含む）を表彰する

①野菜 □果樹 □花き □畜産 □農産 □特産 □林産 □しまの農林業経営

（２）いきいきファーム（組織）

下記２部門において先進的に取り組み、成果を上げている農林業者の組織（法人を含む）を表彰する。

□産地集団部門 □地産地消・食農部門

（３）げんきビレッジ（地域）

下記４部門に先進的に取り組み、成果を上げており、継続的かつ今後の成長が期待できる農林業者の組織や自治会、NPO 法人等を表彰する

□食落営農・地域営農部門 □農山村地域保全部門 □都市との交流部門

□農産加工部門

（４）特別部門

農林業生産方式の改善に貢献した農林業関連企業、長崎県産農林産物を活用している食品関連企業、生産者と消費者との相互理解の促進に取り組んでいる消費者団体等、長崎県農林業の発展に顕著に貢献した組織及び個人を表彰する

令和元年度

「ながさき農林業大賞」及び「ながさき水産業大賞」

表彰式次第

期日：令和元年 11 月 9 日（土）

場所：長崎サンプリエール（長崎市）

4 階シェーナ（表彰状授与式）

3 階ベルル（祝賀会）

<表彰状授与式>

11：30～12：40

- 1 開 会 あ い さ つ
- 2 祝 辞
- 3 来 賓 紹 介
- 4 審 査 講 評
- 5 表 彰 状 授 与
- 6 閉 会

<記念写真撮影>

12：40～13：00

<祝 賀 会>

13：00～14：30

- 1 開 会 あ い さ つ
- 2 来 賓 紹 介
- 3 運 営 委 員 紹 介
- 4 乾 杯
- 5 受賞者の喜びの声
- 6 閉 会

ながさき農林業大賞運営委員会・ながさき水産業大賞運営委員会

ながさき農林業大賞運営委員会

構成

長崎県

協賛団体

長崎県農業協同組合中央会
全国農業協同組合連合会長崎県本部
長崎県農業会議
長崎県畜産協会
長崎県花き振興協議会
長崎県茶業協会
西九州たばこ耕作組合
長崎県森林組合連合会
長崎県土地改良事業団体連合会
長崎県農業経営改善ネットワーク
長崎県青果市場連合会
長崎県市長会
長崎県町村会
NHK長崎放送局
長崎新聞社

(順不同)

後援

長崎県生活協同組合連合会、NBC長崎放送、KTNテレビ長崎、
NCC長崎文化放送、NIB長崎国際テレビ、毎日新聞社、
朝日新聞社、西日本新聞社、読売新聞西部本社 (順不同)

ながさき水産業大賞運営委員会

構成

長崎県

協賛団体

長崎県漁業協同組合連合会
長崎県信用漁業協同組合連合会
長崎県漁業士連絡協議会
長崎県漁協女性部連合会
長崎大学水産学部
長崎県市長会
長崎県町村会
NHK長崎放送局
長崎新聞社

(順不同)

後援

長崎県生活協同組合連合会、長崎県水産加工振興協会、
NBC長崎放送、KTNテレビ長崎、NCC長崎文化放送、
NIB長崎国際テレビ、毎日新聞社、朝日新聞社、西日本新聞社、
読売新聞西部本社、水産経済新聞社、みなと新聞九州支社 (順不同)

令和元年度ながさき農林業大賞受賞者の方々

<農林水産大臣賞及び長崎県知事賞>

トップファーマー

野菜部門 田中一喜 様、田中将太 様 (雲仙市)

<長崎県知事賞>

トップファーマー

花き部門 城川 洋 様、城川ルミ 様 (南島原市)

畜産部門 稲本俊郎 様、稲本侑紀 様 (松浦市)

しまの農林業経営部門 松崎秀利 様、松崎弘子 様 (小値賀町)

いきいきファーム

産地集団部門 長崎南部森林組合大村支所 様 (大村市)

地産地消・食農部門 大地のめぐみ 様 (南島原市)

げんきビレッジ

農山村地域保全部門 NPO法人100年の森佐世保 様 (佐世保市)

都市との交流部門 やったろうde高島 様 (長崎市)

農産加工部門 株式会社 雲仙きのこ本舗 様 (南島原市)

<ながさき農林業大賞運営委員会賞>

トップファーマー

野菜部門 朝長嘉裕 様、朝長和子 様、朝長卓也 様、朝長和也 様 (大村市)

// 本多勝則 様、本多幸美 様 (南島原市)

// マルナンファーム株式会社 様 (南島原市)

果樹部門 福田良浩 様、福田美子 様 (大村市)

花き部門 上野周二 様、上野登美子 様 (佐世保市)

畜産部門 株式会社 種村牧場 様 (島原市)

// 有限会社 塚ちゃん雲仙たまご村 様 (島原市)

農産部門 農事組合法人 平人営農組合 様 (壱岐市)

特産部門 内田 隆 様、内田 裕美 様 (南島原市)

しまの農林業経営部門 柳川信行 様 (壱岐市)

いきいきファーム

産地集団部門 長崎県央農協いちご部会 南部支部 様 (諫早市)

// ながさき西海農協 平戸地区いちご部会 様 (平戸市)

地産地消・食農部門 勝本地区納豆生産組合 様 (壱岐市)

げんきビレッジ

集落営農・地域営農部門 農事組合法人ひえこば 様 (波佐見町)

農山村地域保全部門 島原農地保全広域協定運営委員会 様 (島原市)

<特別賞>

特別部門 木村 務 様 (佐世保市)

特別部門 長崎県立諫早農業高等学校 様 (諫早市)

令和元年度ながさき水産業大賞受賞者の方々

<長崎県知事賞>

魅力ある経営体部門 経営強化の部
濱村 初好 様、濱村 弥生 様 (五島市)

魅力ある経営体部門 技術・担い手の部
城山水産 様 (五島市)

魅力ある漁村地域部門
鴨居瀬地区藻場保全組織 様 (対馬市)

<長崎県漁業協同組合連合会長賞>

魅力ある経営体部門 経営強化の部
永尾 純一 様 (対馬市)

魅力ある経営体部門 技術・担い手の部
本多 政満 様、本多 正 様 (南島原市)

魅力ある漁村地域部門
玉之浦漁業集落 様 (五島市)

<特別賞>

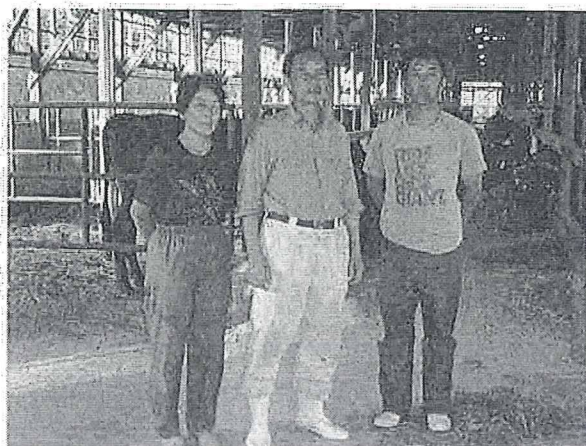
魅力ある経営体部門 経営強化の部
有限会社 小山水産 様 (西海市)

魅力ある経営体部門 経営強化の部
株式会社 若宮水産 様 (壱岐市)

魅力ある経営体部門 技術・担い手の部
有限会社 辻川水産 様 (松浦市)

運営委員会長賞

畜産部門（トップファーマー）



法人名（設立年）

かぶしきがいしゃ たねむらぼくじょう
株式会社 種村牧場（平成 27 年）

だいいょうとりしまりやく たねむら しげのり
（代表取締役 種村 繁徳）

市町名 島原市

所属集団

島原雲仙農協和牛肉牛連絡協議会

1 受賞理由の要約

- （1）県内でいち早く肉用牛一貫経営に取り組み、農地の利用集積による飼料自給体制の確立や未利用資源を活用した飼料コストの低減を図り、肥育部門では粗飼料前期多給や肥育牛の出荷ストレス軽減に努め、高い上物率を実現するなど、高い技術力を有している。
- （2）後継者とともに法人化に取り組み、経営の高度化を実現している。
- （3）長崎県 JA 肉用牛部会長連絡協議会副会長（肥育部会長）や、島原雲仙農協和牛肉牛連絡協議会会長、宇土山土地改良区理事長、長崎県農業経営改善ネットワーク会長を務めるなど、地域の農業振興に貢献している。

2 経営の概要

	主品目（肉用牛一貫）	その他（ ）	合 計
作付面積(頭羽数)	肉用牛繁殖 65 頭 肉用牛肥育 50 頭	—	肉用牛繁殖 65 頭 肉用牛肥育 50 頭
単 収	肥育牛出荷頭数 50 頭	—	肥育牛出荷頭数 50 頭
販 売 量	肥育牛出荷頭数 50 頭	—	肥育牛出荷頭数 50 頭
労 働 時 間 (うち雇用時間)	6,300 時間 (320 時間)	—	6,300 時間 (320 時間)
家族従事者数	3 人	後継者の状況：あり かつ 株式会社	
家族経営協定の有無	就業規則整備あり		
安全・安心と環境に 調和した農業の取組	自給飼料の生産（飼料米含）、抗生剤等使用低減の取組 生産履歴記帳（H15 年～）、生産履歴に基づく販売（H15 年～）、 資源循環の取組（地域・部門間連携（3 者以上））		

3 特徴的な取り組み

- （1）県内で最初に肥育素牛の外部導入がない完全一貫経営に取り組むとともに、飼料作物の栽培面積拡大や、自家配合、豆腐粕利用による生産コストの低減を実現している。
- （2）法人化に伴い、役割分担を明確にして部門別管理を行い、事故率の低減に努めるとともに、臨時雇用を入れて労働力不足を解消し、省力化に取り組んでいる。
- （3）新長崎型肥育技術に率先して取り組み、育成子牛は一定の月齢になるまで良質乾草を飽食させ、20 ヶ月齢以降は飼育密度を下げストレス軽減や、増体率の向上、出荷牛の瑕疵防止等を実施した結果、4 等級以上の上物率成績が 82% と高い。
- （4）耕種農家のニーズに合わせたブレンド堆肥を生産して野菜農家に販売し、堆肥散布作業も行っている。



運営委員会長賞

畜産部門（トップファーマー）



法人名（設立年）

有限会社 塚ちゃん雲仙たまご村（平成7年）

（代表取締役 塚原 栄志郎）

市町名 島原市

所属集団

島原市養鶏協会、島原第1養鶏組合

1 受賞理由の要約

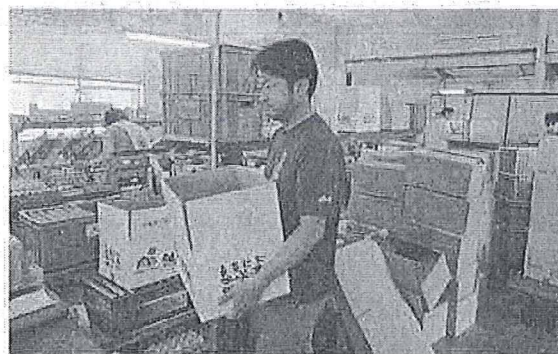
- （1）生産性向上と6次産業化の展開により、高価格販売を実現している。直売店や、自動販売機の設置など直接販売を行うほか、健康志向の消費者をターゲットとした広告による販路拡大や、インターネット販売を16年継続して展開している。
- （2）県内でもいち早く、昭和63年から生産履歴に基づく販売を開始している。平成21年からエコフィードの利用によるコスト低減に取り組んでいる。
- （3）農業分野における障害者の雇用も地域でいち早く実施し、農福連携に取り組んでいる。

2 経営の概要

	主品目（採卵鶏）	その他（ ）	合 計
作付面積（頭羽数）	20,000 羽	—	20,000 羽
単 収	—	—	—
販 売 量	402 t	—	402 t
労 働 時 間 （うち雇用時間）	28,385 時間 （23,712 時間）	—	28,385 時間 （23,712 時間）
家族従事者数	3 人	後継者の状況：あり かつ 有限会社	
家族経営協定の有無	就業規則整備あり		
安全・安心と環境に 調和した農業の取組	エコフィードの利活用（米ぬか、豆腐粕、ビール粕、麺くず）、 抗生剤等使用低減取り組み、生産履歴記帳（S63 年～）、生産履歴に基 づく販売（S63 年～）、資源循環の取組（堆肥供給）		

3 特徴的な取り組み

- （1）平成21年から先駆的にエコフィードを利用した飼料コスト削減に取り組んでいる。平成28年からは発酵処理により、飼料として保存性や嗜好性が向上し、死亡率低減、産卵率向上、廃用日齢の延長など、生産性が向上している。
- （2）インターネット販売を16年継続して行い、年間延べ約15,000件の販路を獲得している。
- （3）卵の自動販売機を設置するほか、直売店で卵、自家産卵のプリンや産卵を終えた鶏肉の焼き鳥、鳥味噌などの加工品を販売するなど6次産業化を展開。直売およびインターネット販売の割合が増加し、卵価低迷の影響を受けにくい経営体制を構築しており、採卵鶏経営においては非常に高い約12%の所得率を上げている。



卵の選別・包装作業

運営委員会長賞

農山村地域保全部門（げんきビレッジ）



組 織 名

しまばらのうちほぜんこういききょうていうんえいいんかい
島原農地保全広域協定運営委員会

代表者名

かいちよう ひらの としほ
会長 平野 俊輔

市 町 名

島原市

発足・設立年

平成27年

1 受賞理由の要約

- (1) 多面的機能支払交付金組織の広域化を県下で初めて実現した。これまでの組織の事務等の受け皿となり、制度存続の危機回避、組織の受け皿となることによる規模の拡大等、自治体の枠を超えた制度の発展に貢献しており、県下の活動組織の模範となっている。
- (2) 広域化した活動区域内の膨大な農業用施設の維持管理について、交付金の集落間の流用などによる計画的な補修等を実現している。
- (3) 活動区域内における荒廃農地発生防止や施設の長寿命化・改修工事等による農業用施設の整備率の向上にも貢献している。

2 組織の概要

構成員数 3,471 人
活動内容 農業用施設の維持管理

3 活動の特徴

- (1) 広域化により事務局が一本化されたことにより、今まで各活動組織がそれぞれ負担していた事務が一元化され、下部活動組織の事務負担が大幅に軽減された。
- (2) 1つの広域組織となり、活動組織間の交付金を共有・調整することで、広域組織全体での交付金の有効活用ができています。
- (3) 下部活動組織間での交流・情報共有等が活発になり、集落間の隔たりが取り除かれ、集落の枠を超えた地域の一体感が生まれている。
- (4) 用排水路や農道の舗装などを年度ごとに計画的に施工でき、定期的な機能診断により農業用施設の適切な維持管理を行うことで、施設の長寿命化が図られている。



4 活動の成果

活動組織数 13 組織
管理農業用施設 農用地 908ha、水路 213.4 km、農道 82.2 km、ため池 5 箇所

5 今後の展望

- (1) 取組面積の拡大を図ることにより、利用可能な農地と多面的機能を維持し、地域農業の発展につながると考えられる。
- (2) 将来的には、島原市の全農地を広域協定運営委員会で取り組むことが望まれている。